

特集

地域活性化への貢献～

全力!! 自己改革Vol.5

「JAファンづくり」活動の新しい姿

JAでは、平成20年から地域密着型活動の一環で各支店を「地域の拠点」と位置づけ、「JAファンづくり」活動に取り組んでいます。今回の特集では座談会を通じて、女性部内堀靖子部長、東峰支店 佐々木太加彰支店長、地域振興部 林俊幸部長に、様々な視点から地域におけるJAの存在、役割など、「地域活性化への貢献」をテーマに語っていただきました。



JAを身近に思ってもらえる
コミュニティの拠点づくり



ファンづくりの活動はな〜
おもしろいもの



「ファンづくり」という固定観念をはずし、
地域に向かう

地域振興部
林 俊幸 部長

本店企画や各支店の「ファンづくり」活動を取りまとめ、次世代対策に向けた食農教育活動の推進などを実践。

JA 女性部
内堀 靖子 部長

女性部活動を通じた食と農による仲間づくりや後継者育成、地域活性化を目指す。

東峰支店
佐々木 太加彰 支店長

地域に頼られる支店づくりを目指し、多彩な「JAファンづくり」活動を積極的に展開する。



▲「五角(合格)餅」作り(東峰支店)

「JAファンづくり」活動の魅力とは？

佐々木 JA筑前あさくら「ファンづくり」活動は、当時の宝珠山支店（現在の東峰支店）の伊藤隆久支店長（現在：金融共済担当常務理事）らが先駆者となり始まりました。最初の頃は参加者が少なかったものの、次第に職員も楽しみながら行うようになり、地域、職員との一体感が生まれてきました。東峰支店は現在、受験生応援企画の「五角餅」や振り込め詐欺防止に向けた高齢者対象の講習会などを行い、地域からも喜ばれています。

林 本店企画の「めぐりキッズスクール」は12年前、県外JAを見習い試行錯誤で始めました。次世代対策で始めたちびっ子軟式野球大会やサッカー大会で頑張る子どもたちの姿に、僕らが力をもらっています。



▲ちびっ子軟式野球大会

内堀 わたしは専業農家ではありませんが、女性部の役員を始めた4、5年前から特にJAに関わる事が多くなりました。いざ自分が活動の中に入ると、仲間づくりの大切さを感じました。自分から地域に入っていくことで周りから声をかけてもらったり、地域のつながりを作るきっかけになると思います。

— 現状の課題は？ —

佐々木 職員一人一人が「ファンづくり」活動をどう思っているのか。新たな活動計画など、自発的に職員

からの意見も欲しいです。以前は県内の小学校からの農業体験を受け入れて田植え、稲刈りまで児童が行っていました。今は学校の方針が変わり、行っていない。子どもだけでの企画は難しく、次世代対策だと親子料理教室など限られたものになっています。

林 組合員と全役職員が一緒に取り組むために、ということが「ファンづくり」活動にとって良いことなのか。今、見直す時期に入ったと思います。協同組合の「協」は、3人の力が集まると10倍の力となる、と言う意味があります。九州北部豪雨がきっかけで昨年11月に開催した「がんばろう！あさくら祭り」では、今までの各支店の地域密着型ではなく、JA筑前あさくらの全体的な「ファンづくり」活動として各支店が

アイデアを出し合ったことで、職員や地域の一体感が生まれた気がします。今後はもっと組合員や地域を巻き込んだ企画を考えていきたいです。

内堀 そうですね。JAも組合員を含め一つの家族、皆が役目を持って育てるもの。ファン、と言うと一方的にも思えます。女性部は「ファンづくり」の主役。いかに地域の方に声掛けして、楽しく活動できている

かを発信、浸透できればいいなど。主に「ファンづくり」活動が行われる土、日曜日は、JAも休みだから地域と触れ合うきっかけが生まれません。職員は平日に代休を取るなど、時間を作り参加することも大事だと思っています。いくら施策ができて必要なのはマンパワー、積極的に活動する人を育てることです。10、20年後、次のわたしたちの立場になる人をどう育てていくかも課題のひとつではないでしょうか。

— JAの目指す姿とは？ —

佐々木 「ファンづくり」という固定観念をはずし、組合員や利用者の方と身近に接することができれば、相手からも来てもらえるのではないのでしょうか。積極的に地域に向くことが大事ですね。若い職員は、仕事として地域の方と付き合うのではなく、祭りなどの地域行事に参加することですね。顔や名前を覚えてもらうことでJAに興味を持ってもらえるきっかけになると思います。

林 JAを身近に思ってもらえるコミュニティの拠点づくりです。人は自分から動かないと相手も動かない。でも、本気さは必ず相手に伝わります。わたし自身も出身が朝倉ではな

く入組当時は知り合いがいらない状態でしたが、地域に積極的に出向いてきました。小学6年生の時、「将来営農指導員になって、この地域の生産者を幸せにしたい」と作文で書きましたが、今でもそう思っています。

内堀 そういう気持ちで仕事に向かってくれていると嬉しいですね。思うのは、ファンはつくるものではなくできていくもの。JAは、組合員や地域の方々を支え、組合員に代わって経営や生活の向上のためにサポートして行くのが仕事。協同組合の精神のもと、相手を思いやり、皆でレベルアップすることが、地域との一体感が広がることではと感じます。

— ありがとうございます。 —

座談会を終えて

「自らの一歩」をきっかけに出向くことで交流へとつながり身近に感じあえるような関係を目指し「組合員さんのJA」「JAがなくては困る」といわれる存在を築けるように進んでいきたいです。

地域振興部

食農普及課 課長 大内田千枝